

# アンケート結果（概要）

## インクルーシブ教育システム構築の推進

宮城県内（仙台市を除く）の小学校、中学校、義務教育学校の特別支援教育コーディネーターに、インクルーシブ教育システム構築の推進状況に関するアンケートを行いました。「はい」「いいえ」と回答する二項選択型の質問項目の結果です。「はい」と回答した割合は以下のとおりです。

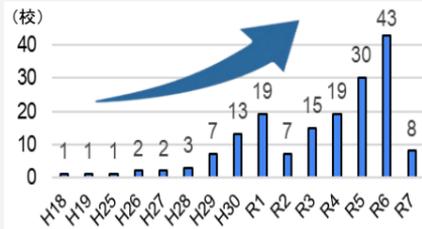
調査項目	合計
【教育内容・方法①】学校の経営方針にインクルーシブ教育システムの理念はあるか	78.2%
【教育内容・方法②】保護者や地域に対して理解啓発を図っているか	85.9%
【教育内容・方法③】合理的配慮の合意形成を図っているか	97.1%
【支援体制①】校内委員会が定期的に行われているか	93.5%
【支援体制②】SCやSSWはメンバーに入っているか	58.8%
【支援体制③】全職員で情報共有する場はあるか	99.7%
【施設・整備①】施設・設備は整備されているか	83.8%
【教育課程①】時間割を支援学級との間で調整しているか	97.8%
【教育課程②】時間割を通級による指導との間で調整しているか	97.8%
【指導の工夫①】必要な教材・教具・教科書等が準備されているか	94.1%
【指導の工夫②】指導形態の工夫を行っているか	88.2%
【指導の工夫③】テスト等において、配慮がなされているか	81.5%
【指導の工夫④】他の児童生徒との関わりや自己決定の場面はあるか	96.2%
【特別支援学校のセンター的機能の活用】センター的機能をどの場面で活用しているか	77.1%
【校内の交流及び共同学習の推進について】交流及び共同学習を行っているか	99.7%
【学校間の交流及び共同学習の推進について】特別支援学校との交流及び共同学習を行っているか	65.3%
【医療・福祉・労働等との連携】連携している関係機関はどこか	98.8%
【教職員の専門性】校内で研修会を実施しているか	55.9%

・各学校で、全ての子供が共に活動するための取組は進んでいる。

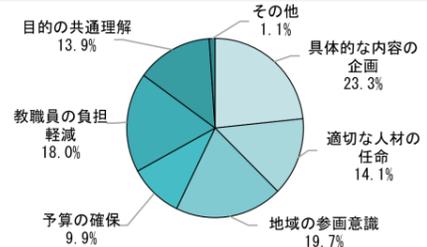
## CSに関する調査

宮城県内（仙台市を除く）のCSを導入している小学校、中学校、義務教育学校の管理職に、CSの取組状況調査を行いました。主な結果は以下のとおりです。

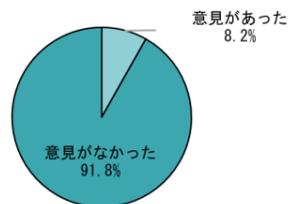
### 【CS導入年度】



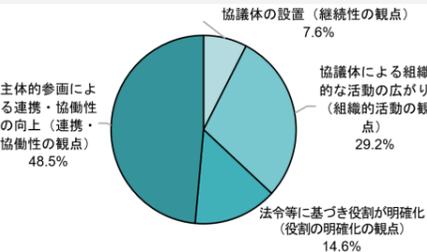
### 【学校運営協議会の課題】



### 【CSでインクルーシブ教育システムに関する意見の提案】



### 【インクルーシブ教育システム構築に向け、CSのどんな機能が有効か】



- ・学校運営協議会を導入したものの具体的な活動の実施について試行錯誤している。
- ・インクルーシブ教育システムの視点を取り入れた取組を議論する機会は少ないが、インクルーシブ教育システムの構築に向けてCSの連携・協働性の機能を有効活用できると考えている学校が多いと読み取れる。

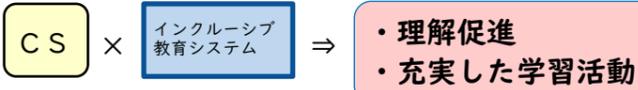
## 実践案の紹介

～子供たちの学びを豊かに～



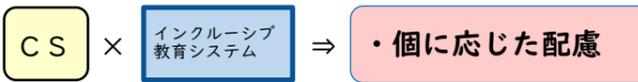
### 福祉体験学習

- ・地域と連携した活動を行うことにより、実際の場面での学びの場を確保する
- ・児童生徒が障害や高齢者の視点を理解し共感を育む



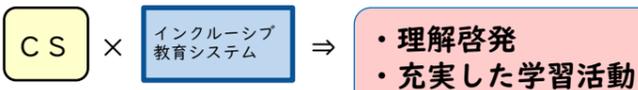
### 防災学習

- ・地域住民と危険箇所を共に確認する
- ・災害時のリスクの理解をする
- ・事前打合せによる情報共有を行う
- ・顔を合わせて活動し相互理解を図る



### 作業販売学習

- ・地域の方が広告の配布、活動を支援する
- ・特別支援学級の児童生徒が、購買者の意見を生かした製品を作成する



イラストは生成AIを用いて作成

## 宮城県総合教育センター

令和7年度 教育課題研究 特別支援教育研究グループ



特別支援教育班 指導主事 吉田 典子  
 特別支援教育班 指導主事 佐々木和浩  
 大衡村立大衡小学校 教諭 八巻 京子  
 宮城県立船岡支援学校 教諭 橋本みゆき  
 宮城県立名取支援学校 教諭 金野 公太



# 共生社会の担い手を育む教育の推進

—宮城県のインクルーシブ教育システムの構築状況と  
 コミュニティ・スクールの取組に関する調査研究を通して—



令和7年度 宮城県総合教育センター  
 教育課題研究 特別支援教育研究グループ

## 本研究の概要

本研究は、本県の小学校・中学校・義務教育学校におけるインクルーシブ教育システム構築の推進状況とコミュニティ・スクール（以下、CS）の現況を調査し、その関係性を明らかにすることを目的として実施しました。その結果、CSの枠組みを活用することがインクルーシブ教育システムの継続性に影響することが分かりました。この知見は、今後の子供たちの共に学ぶ仕組みを安定して整えることに貢献し、共生社会を実現するための人材育成の端緒となると考えます。

### 共生社会



### インクルーシブ教育システム

#### ○ 障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み

共生社会を目指す上で「インクルーシブ教育システム」を安定した継続性のあるものとしていくことが重要です。



インクルーシブ教育システムを安定的に継続するためには、地域との連携がカギのようですね。私はCSを活用するのが良いと考えています。

### CS

#### ○ 「地域とともにある学校づくり」に有効なツール

CSは、学校運営協議会を設置する学校です。子供たちや学校を取り巻く環境が複雑化・多様化する中、学校・家庭・地域による一体的な取組が必要と言われています。それを実現可能にする仕組みの一つがCSです。



アンケートの分析結果と先進校の視察から見えてきた、CSを活用したインクルーシブ教育システムを安定的に継続するポイントを次のページにまとめました。

上記を踏まえて右の5つを提案します。



## インクルーシブ教育システムをCSの活用で継続性のあるものへ！



先進校でインクルーシブ教育システムの視点を取り入れた長期的な取組が実現しているポイントを〇で示しました。また、CSの円滑な取組を進めるために学校運営協議会においての重要な事柄を△で示しました。

### 1年間のCSのPDCAサイクル



共通の目標にインクルーシブな教育環境の整備を掲げよう！

【例】すべての子供が安心できる環境づくり  
インクルーシブ教育システムの視点を共通の目標に入れることで、体制が整い、継続性のある支援への一歩となる。



目標やビジョンの共有

主体的な参画による連携・協働

- ・学校課題の検討
- ・積極的な情報開示

### 学校

学校運営協議会主体の人選

- ・目的を共有できる人材を登用

教職員の任用等について

- ・特別支援教育の実践経験の有無を面談で確認など

### 学校運営協議会

全員参加の会議

意識の醸成と研修の充実

主体的な参画ができるシステムづくり



### 自治体

自治体のバックアップ

- ・ボランティアやサポーターなどの人材の確保など



### 地域学校協働活動推進員 (コーディネーター)

役割の明確化と具体的な活動の工夫

- ・学校と地域をつなぐ

### 地域学校協働本部

主体的な参画による連携・協働

学校運営協議会委員や地域の人と、児童生徒が接しやすい活動を取り入れよう！

【例】防災訓練  
活動内容を参加者が理解しやすく、互いが意図的に接する場面を設定しやすく。

【例】ポッチャ体験会  
年齢、性別、障害の有無に関わらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツを通じて、相互理解を深めやすい。

役割の明確化と具体的な活動の工夫

みんなで専門性を高める研修を受けよう！

【例】障害特性に関する研修会  
教職員、学校運営協議会委員、支援員等が同じ場で研修を受けることで目線を合わせられ、共通の児童生徒の関わりにつながる。



学校評価を生かしてインクルーシブ教育システムを確認する  
成果と課題の把握、CSとして大事にすべきことを検討するなど

- ① 学校側から学校運営協議会への積極的な情報開示と情報共有の場の設定
- ② インクルーシブ教育システムの視点を明記した共通の目標の設定
- ③ 学校運営協議会主体の子供の居場所づくり
- ④ 学校サポーター等の人的支援の活用
- ⑤ 学校運営協議会が主催する教職員と合同の研修会の実施